

# 令和6年度 授業以外の学修（学習）時間に関する調査【全体概要】

## 調査人数・調査日

		1年次	2年次	3年次	
前期	開始時	人数	62	46	48
		調査日	R6.4.24	R6.4.17	R6.4.9
	終了時	人数	57	52	40
		調査日	R6.8.5	R6.8.6	R6.7.31
後期	開始時	人数	56	46	50
		調査日	R6.9.17	R6.9.18	R6.9.24
	終了時	人数	55	未調査 (回線不具合)	57
		調査日	R7.2.6		R7.2.10

## I. 授業以外での学修行動について

歯科授業以外の学修行動は学年ごとに傾向の違いがみられた。

1年次では、レポートや課題対応、授業の復習など、授業に直結した基礎的学修が中心であった。

2年次では、専門科目の増加に伴い、実技練習や小テストへの準備に割く割合が高まり、学修行動の幅が広がっていた。

3年次になると、国家試験対策や臨床実習に直結した学修が大部分を占め、特に実技練習や過去問題演習といった実践的学修が顕著であった。

低学年から高学年にかけて、学修行動は「授業理解のための基礎学修」から「実技・試験準備を中心とした実践的学修」へと段階的に移行していることがわかる。

## II. この1週間の授業以外の学修をした時間について

歯科衛生学科1～3年次の1週間の学修時間を図2に示した。

### 1. 学年による違い

1年次では、1～3時間程度の学修時間が最も多く、学修時間は比較的短く分布も集中していた。これは、大学の学習スタイルに慣れる段階であり、課題や授業の復習に限られた時間を充てていることが影響していると考えられる。

2年次になると、5時間以上学修する学生の割合が増加し、特に10時間を超える学生も見られるようになった。専門科目や実技試験への対応により、学修時間が拡大している傾向が明らかである。

3年次では、国家試験対策や臨床実習の準備により、10時間以上の学修時間を確保する学生の割合が最も高くなり、学修時間に大きな個人差が生じていた。

学年が上がるにつれて授業以外の学修時間は増加し、1・2年次では短時間で集中する傾向が強い一方、3年次では長時間かつ多様な学修活動に取り組む傾向が顕著であった

### 2. 曜日ごとの学修時間の分布

平日は授業や課題提出に合わせて比較的短時間の学修が多く、授業内容の復習や小テスト対策などに時間を充てる傾向がみられた。一方、週末（土日）では、学修時間が長くなる学生が多く、まとまった時間を確保してレポート作成や国家試験に向けた学習を行うことが特徴的である。特に3年次では、平日・週末を問わず国家試験対策に取り組む学生が増え、全体として学修時間のばらつきが大きくなる傾向が確認された。

### Ⅲ. まとめ

授業以外の学修行動と学修時間には、学年の進行に伴う明確な変化が認められた。

1・2年次では授業理解や課題対応を中心とした短時間の学修が多くみられたが、学年が進むにつれて試験準備、国家試験対策といった専門性・実践性の高い学修が増加した。それに伴い、学修時間も拡大し、個人差も大きくなっていった。また、曜日ごとの傾向として、平日は短時間の学修、週末は長時間の学修に充てる傾向が明らかとなった。

総じて、授業以外の学修は「授業理解のための基礎的な学修」から「資格取得や臨床実習を見据えた長時間の実践的学修」へと発展していることが示され、学年進行に応じた学修支援の必要性が示唆された。

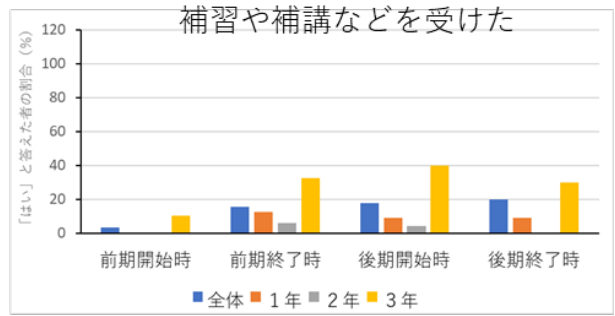
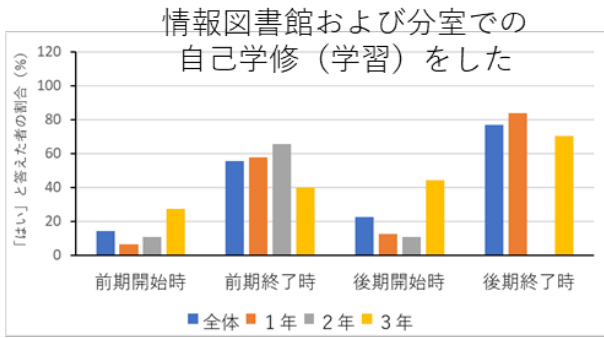
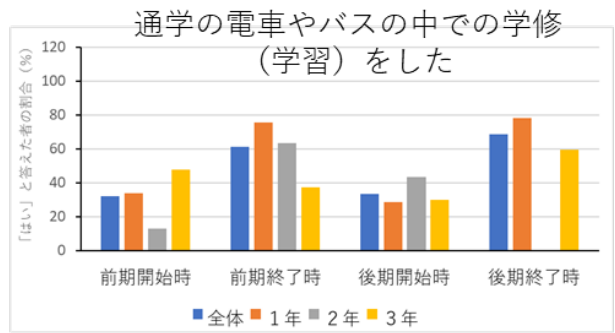
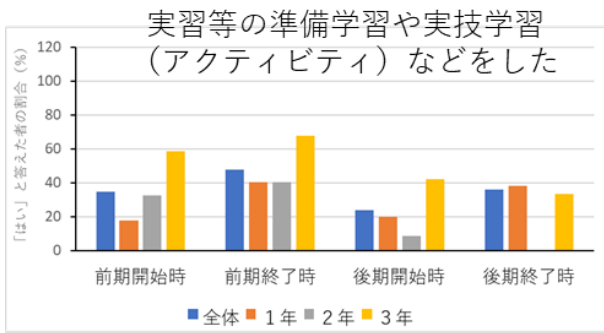
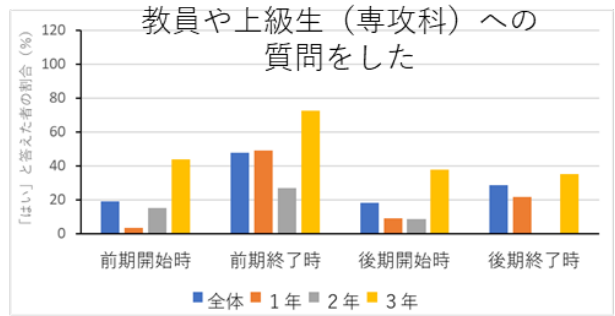
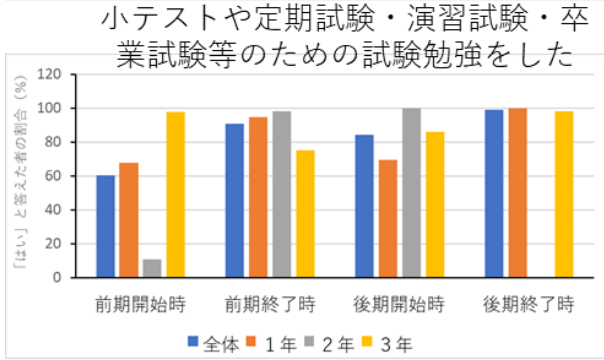
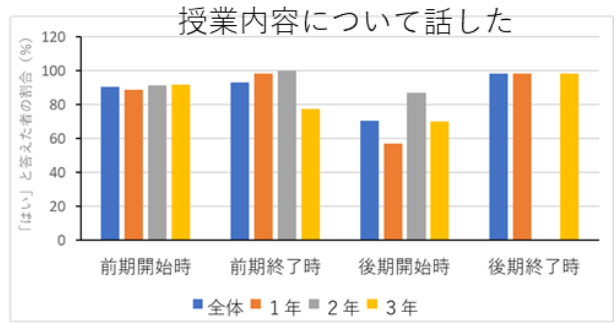
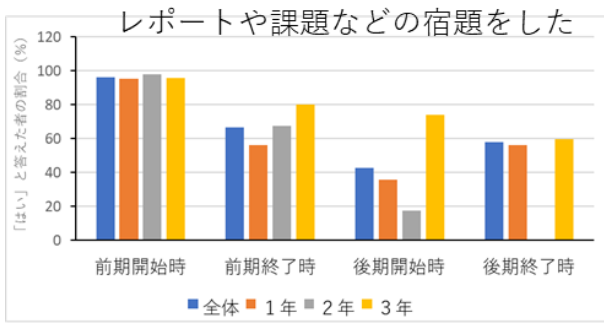
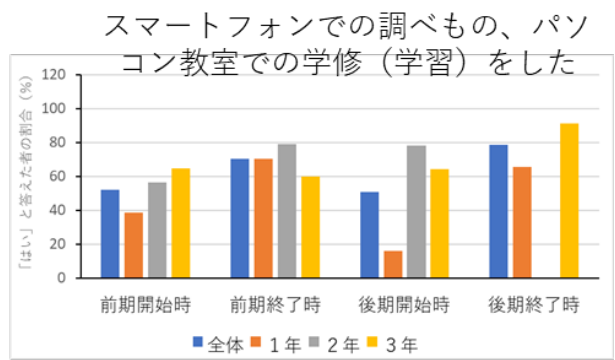
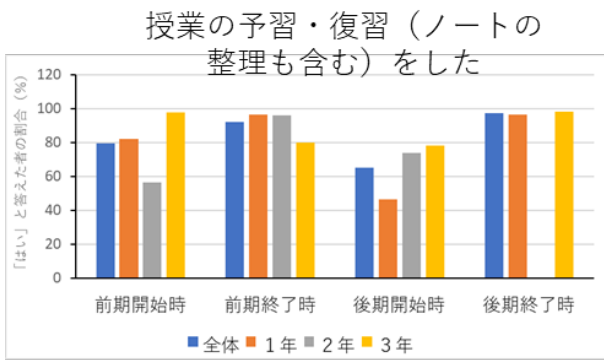


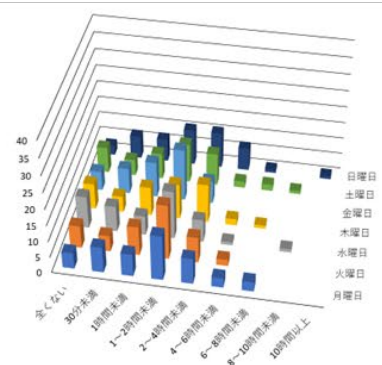
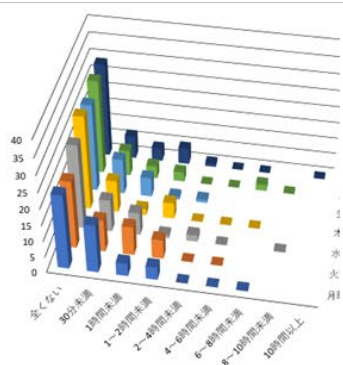
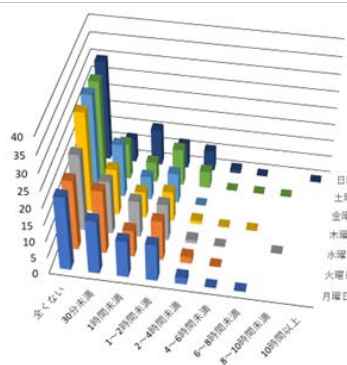
図1 授業以外での学修行動

### 前期開始時

1年

2年

3年

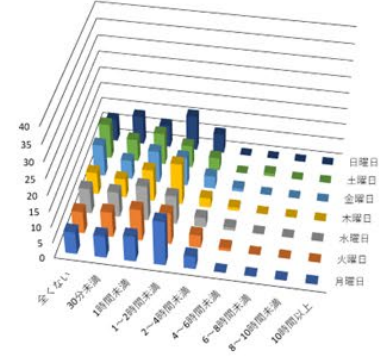
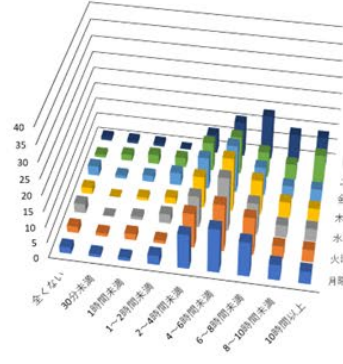
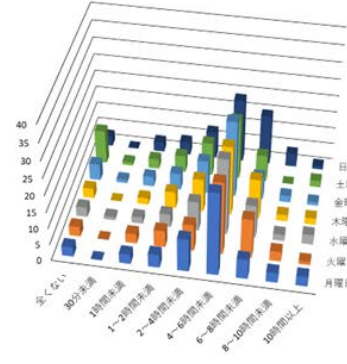


### 前期終了時

1年

2年

3年

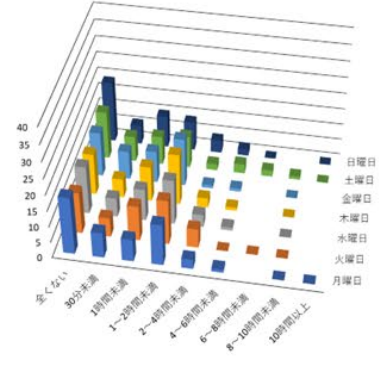
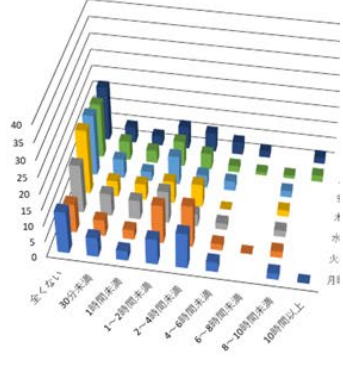
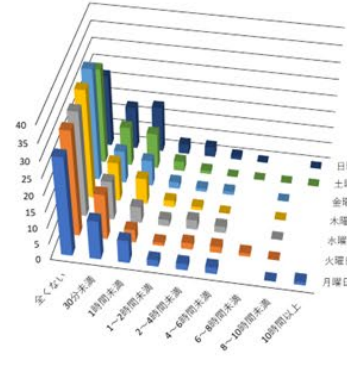


### 後期開始時

1年

2年

3年



### 後期終了時

1年

2年

3年

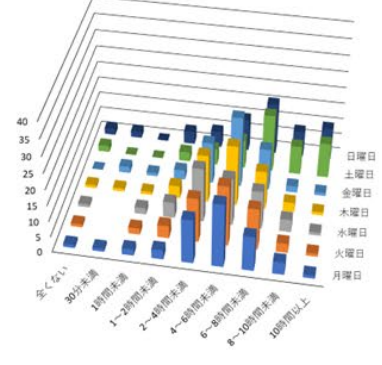
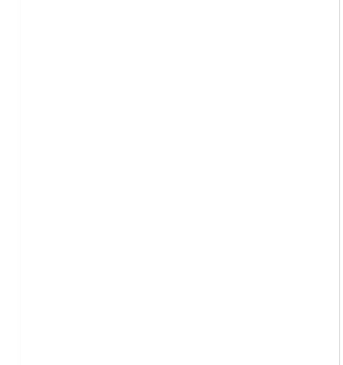
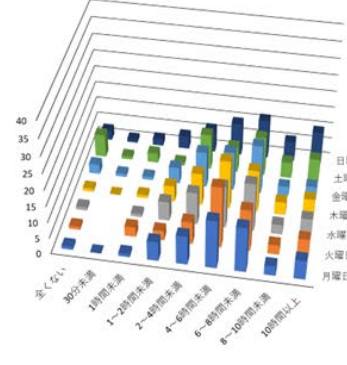


図2 1週間の授業以外の学修をした時間